

第8回

太陽の“ひかり”、暮らしの“あかり”。

暮らしの中で、普段何気なく使っている照明器具。よく見ると、さまざまな種類があることに気づきませんか。天井に設置しているもの、吊り下げているもの。ひかりの色もいろいろです。食事のとき、くつろぐとき、書き物をするとき…。それぞれのシーンで、“最適”なあかりがあるということをご存知ですか？

暮らしのシーンとともにある“あかり”。

今夜はちょうどロマンチックに夫婦でワインでも…あるいは、静かな音楽をソファでゆったり楽しみたい…。そのようなシーンを思い浮かべてみてください。部屋の雰囲気は？また、照明は？色は？明るさは？…少し暗めで、キャンドルやスタンドの赤っぽい暖かい光で照らされる情景が浮かんできませんか？一方、勉強したり作業したりするときは…？そう、私たちは「あかり」の色や明るさを無意識に使っているのです。

太陽から与えられるものだった“ひかり”。

むかしむかし、今のように電気がない時代。ひとは「日／火」のひかりのもとで暮らしていました。朝、太陽が昇ると目覚め、二日の準備を始めます。昼間、太陽が高いうちに、日のひかりのもとで仕事をし、夕方、太陽が落ちると仕事はおしまひ。夜は、火のあかりでくつろぎ、明日への英気を養います。我々の祖先はこうした暮らしのサイクルを何千年の間（あるいはそれ以上）、営々と繰り返してきたわけでは？



エジソンが白熱灯を発明したのは、今から、百年ちょっと昔。現代は照明技術や電力インフラが整備され、夜でも昼間のようなひかりのもとで活動することが可能になりました。しかし、我々のDNAには、ひのひかりのもとでの暮らしの感覚が染み込んでいます。現代の住宅照明にも、そうした感覚にマッチしたひかりを再現することが、より心地よい照明計画につながります。

照明の三つの役割…「空間把握」「作業」「演出」。

照明には、大きく分けて三つの役割があります。一つ目は「空間把握のためのあかり」。空間の中で、どこに何があるかを把握する役割です。廊下や階段では、歩行時に安全な明るさが必要となります。二つ目は「作業のためのあかり」(図A)。キッチン作業や書き物をするときに、手元を照らすあかり。家族が集まるリビングダイニングは、家族がそれぞれの居場所を新聞を読んだり、宿題をしたりと、空間全体で「作業のためのあかり」が必要となります。ちょうど明るめのシーリングライトは、「空間把握」と同時に

「作業」の役割も果たすユニティレイトということとなります。注意する点は、作業に支障が出ない十分な明るさと、同時に、見やすさを損ねるグレア(まぶしさ)や影が出ないようにすることです。

三つ目は「演出のためのあかり」(図B)。ゆったりと楽しむ夕食やソファでの語らいの時間をあるいはお気に入りの調度品を、演出するあかり。「作業のためあかり」と違い、あかりそのものを愛し、あかりに照らされるものを愛し、そんなあかりです。ここで、参考にしたのが、ひのひかりのもとでの暮らし。ポイントは「ひかりの色」「位置」そして、「陰影」です。

活動的な演出は、シーリングライトで高い位置から、できれば、白いひかりで空間全体をまんべんなく明るくするのがお勧め。対して、落ち着いた演出には、スタンドで低い位置から、赤いひかりでほの暗い陰影を楽しむのがお勧めです。

“多灯分散型”の照明計画。

住宅では、さまざまな生活行為が繰り返され、行為ごとに求められるひかりの役割も変わってきます。

特にリビングダイニングは、時間ごとにさまざまな生活シーンが展開される家族の舞台。例えば、普段、新聞を読んだり、パソコンをしたり、お子様が宿題をしたりするときに必要なのは、「作業のためのあかり」。でも、デザイナーをゆつたりと楽しみたいときには、特別なシーンに応じた「演出のためのあかり」が欲しいですね。そんなマルチユースな住空間に対応すべく考えられたのが、多灯分散型の照明計画です。一つの空間に複数の照明器具を配置し、必要に応じて使い分けるといった方法です。

の近くにもスタンド、また、絵を照らすライトなど。これらは、赤っぽい電球色の照明器具を配置します。あとはシーンによって、楽しみながら使い分け。作業する時間には、高い位置からまんべんなく照らすシーリング。ゆつたりと楽しむ食事では、シーリングを消して、ペンダントやスタンドだけに。食後のひとときにはソファで、ライトに照らされた絵を眺めながら、手元のスタンドのあかりだけでグラスを傾ける…。このように、ひとつの空間に質の異なる複数のあかりを置いて使い分ければ、快適さの質を高めることにつながります。

これからの時代の“あかり”とは。

このように、生活のシーンに応じた照明計画は、居心地の良さを高める上で欠かせないものですが、今後

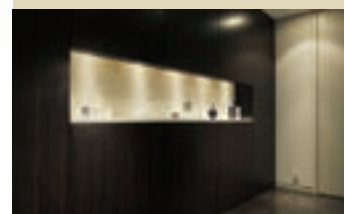
の照明には、これに加えて「コ」の要素が求められます。白熱灯や蛍光灯と比較して電力消費量が少なく、長寿命、メンテナンス性・経済性にも優れたLEDは、次世代を担う照明として注目されています。近年では、LEDは長寿命・省エネというだけでなく、小型で高輝度、制御性の良さといった特徴があり、これまでにない家庭のあかりとしての可能性も広がりました。

生活シーンに合わせて計画されたグランドメゾンの照明。



ワークスペースに求められる作業のあかり
趣味のクラフトや、読み、書きを行なうスペースでは、手元をしっかり照らしたい。スタンドライトの使用を想定し、コンセントの位置にも配慮した照明計画です。

▶グランドメゾン東海岸南



まるでアートギャラリーのような演出のあかり
住戸内に設けたギャラリースペース。間接照明が、オブジェなどをディスプレイした空間を、より印象的に見せています。

▶グランドメゾン白金台

ひ(日／火)のひかりのもとで暮らす、ひとの一日



日の入り

地平線に沈む夕陽。仕事を終え家路につく。疲れた体を癒しに帰るほっとした安堵感。



昼

太陽は真上に。白くまんべんなく照らすひかり。忙しくてきばきと仕事をこなすエネルギーに満ちる。



日の出

真っ暗な夜から徐々に明るくなる。ほの赤いひかりが少しずつ物の形を明らかにしていく。ゆつたりした目覚め。一日のはじまり。



夜

夜。暖炉の火、ろうそくの火が作り出す陰影。憩いのひととき、体を休めやがて眠りへ。

演出のためのあかり (図B)



ゆつたりしたディナーは“演出”重視で

温かい色の照明には、落ち着いて、ゆつたりとお食事を愉しむ雰囲気をつくる効果があります。

作業のためのあかり (図A)



マルチスペースのダイニングなら“作業”重視で

手元を動かす作業には、空間をまんべんなく明るくする照明が適しています。目への負担も軽くなります。

多灯分散型の照明計画で、シーンごとに、“あかり”を使い分け。(図C)



落ち着いた演出

シーリングを消して、ほの赤いひかりのペンダントやスタンドを点けます。



活動的な演出

白いひかりのシーリングを点けて、空間全体をまんべんなく明るくします。